

20 有毒廃棄物輸送（チャレンジ運動より）

I 競技の特性

「有害廃棄物輸送のチャレンジでは、直接手で触れないで有害廃棄物（ボール）を収納したコンテナ（床に置かれた別のかご）に、オープンスペースを横断して輸送する。グループは、有害廃棄物がいっぱいになったかごをロープを使いながら巧みに扱うことが求められる。」

車椅子の児童生徒が活動しやすいように、「移動」をしなくてもできるようにアレンジした。

「ボールの入ったかごに複数のロープをつけ、全員で操作し、ボールをフロアに置かれた大きなかごにこぼさずに入れる」

II 施設・用具

1.施設

屋内，屋外は問わない。

2.用具

(1)複数のロープを取り付けたかご（あるいはバケツ）

18号程度のかごを用意し、それに2.5mほどの長さのロープを10～12本取り付ける。

(2)ボール

重さで手の負担にならないよう軽いボールを使用するとよい。また玉入れの玉などもよい。

(3)大きなかご

ロープ付きのかごから出されるボールを受け止めるためのかご。

(4)カラーコーン，赤白のバー

(5)コンテナ(床に置かれた別のかご)の周りは立ち入り禁止区域として用意する。

III 競技の方法

1.人数（チームの編成等）

5～7人以上が好ましい。車椅子で活動する場合、前後左右の動きがしにくいだけでなく、上下の運動も立って行う者よりも制限があり、ある程度の人数がいないとかごを動かすことができない。

2.チャレンジの進め方

かごには複数のロープが取り付けられている。各メンバーはロープの端を持つ。グループで協力しながら、ロープを操作して、かごに入った有毒廃棄物（ボール）を床に置かれた別のコンテナ（かご）に移し替える。有毒廃棄物をこぼしてしまった場合には、そ

れを処理できる専門家が、特別の道具を使用してかごに戻す。グループはその後再び活動を続ける。

3.ルール

以下の場合にはチャレンジをやり直す。

- (1)有毒廃棄物処理の専門家以外のメンバーが廃棄物に触れた場合。
- (2)コンテナ(床に置かれた別のかご)に有毒廃棄物の入ったかごが触れた場合。
- (3)チャレンジスタート後に、有毒廃棄物の入ったかごが床に触れた場合。

※メンバー同士の承諾した場合には、ルールをグループの実態に合わせて変更することができる。

4.課題の終了

グループがかごの中身をすべてコンテナ(床に置かれた別のかご)に移し替えると、このチャレンジは完了する。

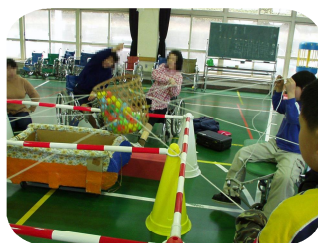


図1 活動の様子

IV その他

1.競技のアレンジ

上記の「有毒廃棄物輸送」で使用するかごを使って、飛ばされた風船をキャッチするゲームである。「有毒廃棄物輸送」同様、協力してチャレンジを完了することがねらいである。

(1)ルール

- ①スターターの合図で風船を飛ばす。手指のけがなどでチャレンジに参加できない場合には、送風機で風船を飛ばす。(図3)
- ②飛ばされた風船を、グループで協力して、ロープを操作して風船をかごに入れる。チャレンジしているときにロープの長さを自由に変える(持ち変える)ことができる。



図2 全体の様子



図3 スターター